

1. 集計結果

○回答数

- ・保護者による評価 19人（20人中）
- ・職員による評価 14人（14人中）

○実施期間

- ・2024年1月5日～15日

○評価の数値状況

- *別紙を参照

2. 分析・討議

○保護者による評価

- ・全体的に「はい」が多数になっている。
- ・「指導員の配置人数は適切であるか」の項目に、「指導員の人数が適切で、本人の意思を尊重してもらえる」という意見もある。「子ども10人に指導員2人」という、国の指導員配置基準では、子どもたちの実態に即さないため、財政運営は厳しくても、「10:6～7」の指導員配置をしている。そのことが、保護者からも評価されている。
- ・「虐待と思われるようなことがなくて、子どもを安心して通わせられるか」の項目に、「とても安心して信頼して通っている」という意見もある。虐待をいっさい行なわない活動を引き続き進めたい。
- ・「子どもに応じた活動が作り出されるとともに、屋内や屋外の活動、長期休業中の活動などが工夫されているか」の項目に、「指導員の人数が適切で、屋外の活動もできる。料理をしたり、絵の具で塗ったり、公園で遊んだりし、楽しくて仕方ない」という意見もある。やはり、必要な人数の指導員配置を行なっていることで、屋外活動などを実施できる。引き続き、子どもにとって必要な活動を維持できるように努めたい。
- ・「子どもは活動を楽しみにしているか」の項目に、「休日も行きたいと言い、居心地のいい安心できる場所だと思う。ゆうやけに行くのが、いつも楽しみ」という意見もある。子どもとともに創造する豊かな活動を引き続き展開していきたい。
- ・「活動に満足しているか」の項目に、「4年前に引っ越してきたが、ゆうやけに入れて満足している。体調がイマイチなときも、安心して預けられる」という意見もある。「ゆうやけに入りたい」という希望が寄せられるような活動内容を引き続きつくり出していきたい。
- ・「保護者の思いや願いを汲み取るため、懇切に対応されているか」の項目に、「子どもが給食を食べられず、学校を早退したとき、早くから受け入れてもらえた。保護者に寄り添った対応をしてくれる」という意見もある。個別の事情にも応じた対応に引き続き努めたい。
- ・「保護者に子どもや活動の状況を報告する機会がつくられているか」の項目に、「迎えのとき毎日、報告してくれる。迎えのとき報告してもらい、情報共有し、帰宅後の対

応の参考にしている」という意見もある。活動中の子どもの様子を、子どもの迎える時間なども使って、保護者に引き続き伝えていきたい。

- ・「会報などが定期的に作られて、活動の状況を知らせたり、保護者の交流を促したりされているか」の項目に、「会報が工夫され、楽しみの1つになっている」という意見もある。保護者の交流にもなる会報を引き続き作っていきたい。
- ・「親子行事、きょうだいの会など、保護者や家族が交流できる機会が工夫されているか」の項目に、「親子行事などが行なわれ、交流の機会は多いと思う。今年度は少しずつ、交流の場が増え、親子で楽しめた」という意見もある。新型コロナウイルス感染が収まってきたため、保護者の交流にもなる行事などを引き続き工夫していきたい。

○職員による自己評価

- ・全体的に「はい」が多数になっている。
- ・「指導員の配置人数は適切であるか」の項目に、「国の配置基準では不十分であるため、子どもの実態に即した指導員配置をしている」という意見もある。厳しい運営の中でも、必要とされる人数の指導員の確保に引き続き努めたい。
- ・「ガラス窓や照明器具などの破損によるガラスの飛散が起こらないような対策をとっているか」の項目に、「飛散防止フィルムを貼っている」という意見もある。「子どもの行方不明や、部外者の勝手な侵入が起こらないような対策をとっているか」の項目に、「内カギを設置している」という意見もある。施設内の安全対策や、事故防止や防犯対策を引き続き取っていきたい。
- ・「虐待防止マニュアルを策定するとともに、虐待を防止するための研修を行なっているか」の項目に、「年3回実施している」という意見もある。身体的な拘束も含めて虐待はいっさい行なわないことを引き続き徹底したい。
- ・「子どもの活動の記録を書いているか」の項目に、「活動ごとに用紙に記入し、提出する」という意見もある。活動ごとに記録を書くことを引き続き大切にしたい。
- ・「子どもの“問題行動”に出会うとき、その内側に、その子の本当の願いが隠されていると考えて、内面を探ろうとしているか」の項目に、「発達に関する文献の指摘などを参考にしている」という意見もある。研修会や事例検討会などを通じ、話し合いつつ学習をしていくことを引き続き重視したい。
- ・「子どもの表面的な事गरらを並べるのではなくて、働きかけて、肯定的な事実をつくりだし、それを意味づけようとしているか」の項目に、「場面記録などを職員間で検討している」という意見もある。子どもの事実を切り取り、意味づけるには、実践記録を書くというアウトプットも必要であることを引き続き伝えていきたい。
- ・「学校で頑張ってきたあとの活動という、生活の流れを意識して、子どもを理解しようとしているか」の項目に、「下校時の様子などで察するようになっている」という意見もある。子どもの気持ちのありようを探りながら活動することを引き続き大事にしたい。
- ・「子どもの育ちの状況を確認、保護者の意見も聞いて、個別支援計画書を半年に1回は見直し、作成しているか」の項目に、「上半期と下半期に1回ずつ作成している」という意見もある。個別支援計画書を年2回作成することを引き続き行なっていきたい。
- ・「会議や研修会を定期的に開いて、子ども理解や実践などについて深めたり、学習したりしているか」の項目に、「週に1回行なってきた」という意見もある。事例検討

や学習を引き続き行なっていきたい。

- ・「子ども理解や実践についての、外部の学習会や講座に参加して、見識を高めようとしているか」の項目に、「コロナが心配なくなったので、対面の学習会に参加したい」「全障研大会や、放課後連の研修会などに参加している」という意見もある。外部の学習会などへの参加を引き続き呼びかけていきたい。
- ・「保護者との面談を行なうなどして、子どもについての状況や意見などを聞き取っているか」の項目に、「年度替わりや半ばに保護者と面談を行っている」という意見もある。保護者との面談を引き続き行なっていきたい。
- ・「保護者から、子どものことでの悩みなどの相談があったときは、懇切に応じているか」の項目に、「電話対応のほか、必要に応じて面談を持っている」という意見もある。保護者からの相談には引き続き対応していきたい。
- ・「保護者が自主的につくる父母会に協力するなどして、保護者同士のつながりをつくっているか」の項目に、「保護者が語り合う場が大事。コロナが落ち着いた今、いっそう意識したい」「バザーなどの活動に協力している」という意見もある。父母会の活動に引き続き協力していきたい。
- ・「学校の年間計画、行事、下校時刻、送迎の方法などを確認しているか」の項目に、「毎回、確認している」という意見もある。学校の下校時間が学校行事などで変更するため、学校への送迎に間違いがないように引き続き留意したい。
- ・「地域住民に活動を理解してもらうための手立てを取っているか」の項目に、「施設の近所の住宅に会報を届けている」という意見もある。地域住民との関係を引き続きつづけていきたい。
- ・「障害のある子どもの放課後活動に関する連絡会に参加して、情報を共有したり、活動に協力したりしているか」の項目に、「放課後連で他事業所と、交流の機会を持っている」という意見もある。関係事業所との連絡・交流を引き続きはかっていきたい。

3. 改善目標

○保護者による評価

- ・ほとんどが高い評価となっている。
- ・一見、否定的にも見える、子どもの行動であっても、その内側には、その子の人間としての肯定的な願いが込められていると見たい。そのことを、事実をつうじ保護者に伝えることを引き続き大事にしていきたい。

○職員による自己評価

- ・ほとんどが高い評価となっている。
- ・子ども1人ひとりを深く理解することこそが、実践の基本と考えたい。子ども理解を深めてこそ、子どもに即した働きかけや活動を展開できる。事例検討や研修を引き続き重視したい。

4. 公表方法

○保護者・職員への文書の配布（2024年1月31日より）

○ホームページへの掲載（2024年1月31日より）